

## 25年12月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 11月20日～ 12月10日

## 2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
12月分の回答企業数は7社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/12月	26/1月	2月
仕入 動向	国産材製材品	0.0	△ 7.1	△ 21.4
	外材製材品	7.1	△ 21.4	△ 35.7
	構造用集成材	△ 8.3	△ 16.7	△ 25.0
消費 動向	国産材製材品	28.6	△ 14.3	△ 28.6
	外材製材品	21.4	△ 14.3	△ 28.6
	構造用集成材	41.7	△ 8.3	△ 16.7
在庫 動向	国産材製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 41.7
	外材製材品	△ 28.6	△ 28.6	△ 28.6
	構造用集成材	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

国産材製材品の仕入れは12月の横ばいから、1、2月は減少に、外材製材品は12月のやや増加が1、2月は減少に、集成材は減少傾向で推移。消費は国産材、外材及び集成材共に12月の増加が1、2月は減少に。在庫はいずれの品目も減少傾向で推移。

## (2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	25/12月	26/1月	2月
受注	14.3	△ 7.1	△ 35.7
加工	21.4	△ 14.3	△ 28.6
受注残	7.1	△ 28.6	△ 28.6

受注、加工及び受注残は12月のやや増加から1、2月は減少に。

## モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・ヒノキ土台が急激にコストアップ。木材ポイントの影響も。ボリューム確保に努める。外材はダラダラしているのが様子見。プレカットはフル稼働のためショートしないようにする。在庫はだんだん増やしてゆく。
  - ・仕入れは外材製材品に更に一段値上げ予定。国産材はおおむね落ち着いている。不需要期に向かい消費量は減少傾向。消費量減少に伴い在庫量も圧縮されてきている。
  - ・仕入はWW集成材は強含みに転じた、ヒノキKD土台が入荷難で厳しい、スギKDは納期が延びたが入荷はあり、冬期に入り仕入れ減少傾向となった、必要分のみ仕入れの予定。消費はこれから月追うごとに減少していく、1月～2月は例年に比べやや多目の消費予測ある、また国産材の消費は1月より一気に減少しそうである。月末在庫は11月比で、12月マイナス10%、1月マイナス25%、2月マイナス35%の予測である。
  - ・仕入は、受注・加工共に5月頃から増え、10月～11月が特に多くなった、スギ、ヒノキKD、土台、柱の材不足で加工予定が立てにくい。
  - ・仕入れは国産材は不足気味、合板が12月に入ってメーカーのオーダーストップで市場は混乱。消費は受注がピーク。在庫はこの状態で3月まで同じ。
- (受注動向)
- ・12月はフル稼働、1月も続いてゆく。・住宅受注量は旺盛、それに伴い形になるのは2年半先になる。
  - ・冬期に入り県内の大工の仕事は減少し始めている。例年通り1月～3月は受注が激減する、採算が悪化する。
  - ・顧客の要望を全てかなえるのは困難になっている。
  - ・